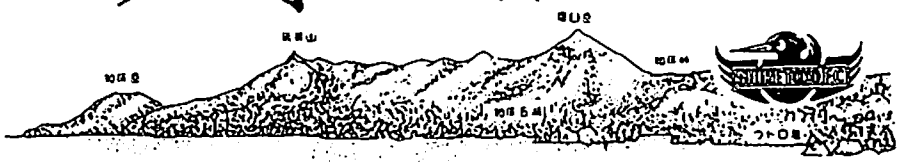
平成５年２月　第２３号

知床の森から



北見営林支局
知床森林センター
〒 099-41　北海道斜里郡斜里町本町１１番地
☎ 01522-3-3009　　FAX 01522-3-3160

☼　流氷ついに接岸　☼

２月１１日、ついに斜里の海岸に流氷が接岸しました。１１月上旬にアムール川周辺の海で発生した結氷は量とひろがりを増しながら流氷となってカラフト東海岸沿いを南下、カラフトを通過した後は北西の季節風に導かれるように斜里海岸に到着します。そしてオホーツク海の大氷原は斜里から稚内方面へと形成されていきます。

今年の流氷の到着は例年にくらべ１０日以上も遅れました。

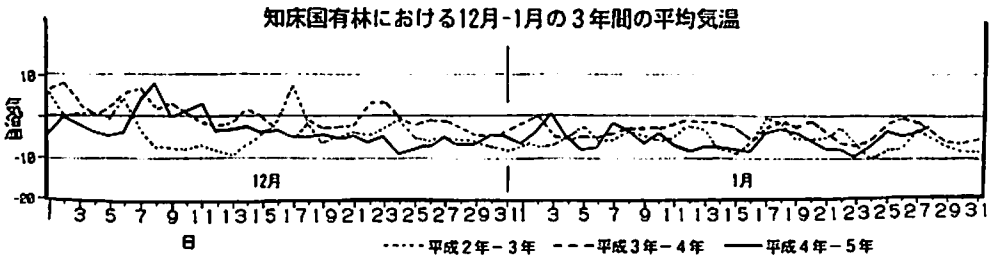
いま斜里の海岸は畳３～４枚分くらいの氷塊が、それ以下の小氷塊と共に海岸線に押し上げられ、波打ち際は氷塊で埋め尽くされています。海面は蓮の葉状の氷が氷泥を織り混ぜながら漂っています。まだ海面がのぞき一望の大氷原にはなっていませんがいよいよ流氷シーズンの到来です。屹立する白銀の知床連山と茫々たる大氷原が、紺碧の空の下に４月上中旬頃まで見られることでしょう。

☃　心配した降雪　☃

３月のイベントは一般の人を対象にして１６・１７日の両日、及び斜里町周辺の子供達を対象とし２６日に「歩くスキー」をする森林教室を予定しています。しかし気になるのは雪の積もりくあい、１月中旬の時点では雪が少なく、知床の森林はクマイザサや小柴が雪に埋もれていない状態で、このイベントの実施が危ぶまれました。

そこで知床国有林の気象観測データから、過去３年間の１２～１月における平均気温を調べグラフに表現してみました。今年の気温で気がつくのは、例年見られる１月の気候のパターンが早くも１２月中旬から見られ、０℃～－１０℃を示していることです。こんなことが１２月～１月の積雪の少ない一つの原因かもしれません。

でも３月のイベントはだいじょうぶなようです。２月に入り流氷接岸の便りも聞こえるころになるとたびたび雪が降り、積雪も増えてきました。まずは一安心というところです。



※　業務研究を発表　※

１月２８・２９日に行われた北見営林支局業務研究発表会に、知床森林センターから「知床国有林におけるミズナラ堅果結実調査について」出題しました。

この研究は知床国有林を構成する主要な広葉樹であるミズナラの、堅果の結実量の把握とその変動の様子を明かにし、北見地方のミズナラ造成に資することを目的として、平成元年に着手して以来毎年調査を行っているものです。今回はこれまでの４年間の調査の結果を経過報告として発表したものです。

この研究発表のおもな考察点は、堅果生産量（数量・重量）を調査木の立地条件・径級・樹冠面積ごとに比較し、かつ堅果の落下終了時期・健全堅果の割合・堅果の豊凶の判断等について年別変動を追求し、いくつかの傾向について述べたものです。調査の精度を高めるべく今後も継続した研究を続けていくことにしています。（ミズナラ堅果とは通称「ドングリ」をいいます）

『早春の知床ウオッチング』

～歩くスキー～

☆　実施日　３月１６・１７日

☆　白銀の雄大な知床を舞台に「歩くスキー」で自然と親しむ企画です。

春まだ遠い海別岳山麓を散策しながら、オホーツク海の流氷・エゾシカやキタキツネ・膨らみ始めた木の芽など楽しみながらの一日です。

雪国に生きる大きな歓び、それは再会を誓った春との出会い。知床の森はさりげなく私たちに春の息吹きを伝えてくれるでしょう。

『親子歩くスキー』

～森林教室～

★　実施日　３月２６日

★　冬休み中の一日、斜里町のオホーツク海沿いの素敵な森林で、早春の森林をスキーで歩き、親子で自然観察と森林教室を体験し、森とふれ合う企画です。

森はなにを語ってくれるでしょう！　皆んなはなにを見つけることができるでしょう！　この身近な森での短い体験が、未来に向かって伸びる子供達の一つのステップになればもう最高！